

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	算 数
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第 1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20 までの数の合成と分解について十分習熟していない児童がいる。したがって、数の概念がまだ完全に構築されず、たし算やひき算の計算に時間がかかる。文章問題では、内容の読み取る力がまだ 30%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物の操作や数直線の活用場面を多く設定する。ゲーム的活動を取り入れ、体験的に理解を深める。繰り返し計算に取り組み、たし算やひき算を早く正確にできるようにする。文章題を図示し、イメージをもたせるようにする。また、問題提示を易から難へ進めるよう具体的に教材の精選をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20 までの数の合成と分解の計算練習を繰り返し行う。理解の進まない児童には、個別対応と共に、家庭の協力を仰ぎ家庭学習も合わせて充実させていく。文章問題については、読み取るためのスキルを理解させるためにスモールステップで取り組ませる。
第 2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ たし算やひき算のひっ算が正確にできていない児童がいる。単元を終えると学びが持続しない児童のためにも、繰り返し、継続的に練習問題に取り組みさせることが必要である。 ・ 時こくと時間の違いや、何時間後・何時間前などの概念を捉えるのが難しい。具体物を使って確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題などで計算練習を意図的に取り入れる。 ・ 補充問題を用意し、計算力の定着を図る。効果的な文章題などにふれ、筋道を立てて思考する練習をする。 ・ 抽象的なとらえ方ができていない場合はあせらずに、具体物に戻って指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習を呼びかけたり、個別指導の時間を確保したりして、児童の力に応じた内容の練習問題に、年間を通して取り組ませる。児童の達成度に応じ思考力を育てるプリントなどを用意し発展的な力を養う。
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四則計算は概ねできる。計算をする時間に個人差がある。 ・ 知識理解の学習内容は、よく身に付いている。 ・ 文章問題での演算決定が不得手な児童が 10%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T T と担任が協力し、個人差に応じて個別指導を行う。 ・ 演算決定に関する言葉に線を引く方法を教える、線分図をかくなどして、演算決定の手がかりとする。また、文章問題を数多く解くことにより、文章の読み方に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容の復習、計算のくり返し練習などを家庭学習で取り組みせ、基礎基本の定着を図る。 ・ 達成度に応じたプリントを用意し、取り組ませる。
第 4 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現処理、知識理解の学習内容はおおむねよくできている。文章題においては、その問いが何を求めているかを把握できていない児童が各クラス 2 割ほどいる。かけ算九九を暗唱できていない、直線が作図できないなど、4 年生までの学習が身につけていない子が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図解、具体物の利用、繰り返しの作図、学習ゲームの利用等、教材教具や指導法の工夫をする。理解を深めさせる。文章題では文章を読んで、その文から考えられる絵や図を書かせる活動を取り入れる。基礎学力が定着するよう、繰り返し練習させる。理解の遅い児童には個別に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習等でプリント・ドリルなどにより繰り返し練習に取り組ませ、計算力の定着を図る。理解が不十分な児童に対しては個別に対応し、家庭と連携して指導する。

<p>第5学年</p>	<p>・小数の乗法・除法の学習では、計算の仕方への理解は高かったものの、実際の計算では、ケアレスミスが多かったり、文章問題では、立式の根拠が見つけれなかったりなどの課題がある。</p> <p>・児童によって理解力の差が大きく、個別の対応が必要である。</p>	<p>・授業内でも繰り返し計算ドリルなどを使用し、小数点の移動や基本的な乗法、除法の計算の技能を高め、定着させていく。</p> <p>・文章問題では、数直線や線文図などを用いて、立式の根拠を見つけ出せるよう指導をしていく。</p>	<p>・朝学習や家庭学習などで計算等の反復練習に取り組みせ、正確な計算力の定着を図る。</p> <p>・理解が不十分な児童には、個別に対応する時間を多くもつようにし、基礎基本的な学力の向上を目指す。</p>
<p>第6学年</p>	<p>・児童間の学力差が大きい。学年相応の力が身につけていない児童がみられる。</p>	<p>・3桁の乗除法、小数の四則計算、分数の加減法など、基礎的な計算に確実に取り組ませる。個に応じてスモールステップをふませ、文章題にも取り組めるようにする。</p>	<p>・朝学習、家庭学習で繰り返し取り組みせ、適宜個別指導を行い、基礎基本を確実に身につけ、学力の向上を目指す。</p>